

第2期地域アクションプラン総括シート (安芸地域)

「数値目標等に対する客観的評価」の方法

- ・達成状況を客観的に評価できる目標について、以下により4段階評価を実施
(客観的に評価できない定性的な目標については、「－」としている)

区分	評価基準		件数
A＋	第2期計画の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できたもの、または状況を改善できたもの	・数値目標を達成したもの → 数値目標の達成率（または達成見込率）が100%以上 ・数値目標ではないが客観的に評価ができる目標を達成した（または達成する見込みがある）もの	15件
A		・数値目標をほぼ達成したもの → 数値目標の達成率（または達成見込率）が60%以上100%未満	4件
A－		・数値目標の達成に向けて十分な進展が見られなかったもの → 数値目標の達成率（または達成見込率）が60%未満	15件
B	第2期計画の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できなかったもの、または状況を改善できなかったもの		15件

【地域アクションプラン 総括シート】

《安芸地域》

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果																
<p>1 ナス産地におけるまとまりづくりとブランド化の推進</p> <p>《室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、芸西村》</p> <p>主産地である安芸市において、ナス産地としてのまとまりの再構築に取り組む。また、消費地から要望の高い品種である「土佐鷹」の栽培拡大を全域に推進していく。</p> <p><事業主体> ・JA土佐あき</p>	<p><系統率向上への取組> (H21～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点巡回指導の実施 ・営農相談で技術情報の提供 ・地区会、勉強会の開催 <p><土佐鷹の推進> (H21～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐鷹普及推進協議会や生産者大会の開催 ・営農指導員等の研修会の実施 ・土佐鷹勧誘用のポスター・チラシ作成・配布 ・土佐鷹栽培こよみ作成・配布 	<p><系統率向上への取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統外生産者を含めた地区会、環境保全型農業や環境制御技術の最新情報などの勉強会の開催、また、学び教えあう場の活用などにより、まとまりの意識が徐々に醸成されている。 ・JA土佐あき新施設園芸システム勉強会が発足 (H25) ・研究会ナス部会への参加者増により活動の活性化 (安芸集出荷場) が図られている。 <p>参加者数：</p> <table border="0"> <tr> <td>H21</td> <td>126人</td> <td>H22</td> <td>174人</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>228人</td> <td>H24</td> <td>325人</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>393人</td> <td>H26</td> <td>370人</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>236人</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>⇒ 安芸市のナス系統率が向上した H21：52%→H27：55%</p> <p><土佐鷹の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸場の新規加入者数 ：合計28名 (H22～27園芸年度) ・JA土佐あき全体の消費拡大連絡協議会が発足 (H25) 	H21	126人	H22	174人	H23	228人	H24	325人	H25	393人	H26	370人	H27	236人		
H21	126人	H22	174人															
H23	228人	H24	325人															
H25	393人	H26	370人															
H27	236人																	

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
安芸市の系統 出荷率 60% (H21:52%)	(H27年度末実績) 55%	A-	研究会ナス部会への参加者(安芸集出荷場)増(H21年度126人→H27年度236人)、地区会の開催(H27年度8回)などにより、ナスの系統出荷率は向上したが、土佐鷹の作付面積は減少した。 また、増収効果が確認された環境制御技術を普及するため、『環境制御技術導入加速化事業』等を利用することで、炭酸ガス発生装置等の導入が進んだ(18.7ha、H28.3月現在)。	・ 今後は産業成長戦略の品目別戦略「ナス」に位置付けのもと、全県的な取り組みとして支援(H28.3月地域AP終了)
土佐鷹の 作付面積 80ha (H23:29ha)	(H27年度末実績) 18.6ha		B	

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>2 ヌズを中心とした中山間振興</p> <p>《室戸市、安芸市、安田町、北川村、馬路村》</p> <p>日本一のヌズ産地として、生産性の向上や品質の低下の防止とともに、ヌズ果汁等の販路拡大に取り組み、ヌズ販売額の向上を図る。</p> <p><事業主体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐あき ・JA馬路村 	<p>(JA土佐あき)</p> <p><新植、改植の推進への取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県選抜系統を活用した母樹園を設置(H22~) ・講習会等での定期的な栽培指導及び改植事業の説明(H22~) <p><将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・北川村ゆず振興協議会で作業受託組織の設立等を検討(H24~) ・園地流動化に向けた園地調査を実施(H26~) <p><ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓></p> <ul style="list-style-type: none"> ・果汁の販売対策として計画的な施設整備 果汁殺菌設備(H24) 産業振興推進総合支援事業費補助金 13,966千円 ・JA内に販売対策チームの設立(H24) ・EU向けに青果輸出の開始(H24~) ・北川村ゆず王国(株)による青果輸出(H24) 産業振興推進総合支援事業費補助金 638千円(ステップアップ事業) ・消費者との交流イベント(収穫祭、料理コンテスト)実施(H24~26) ・産業振興アドバイザーの招へい 3回 <p>(JA馬路村)</p> <p><将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との情報共有、課題・問題点の把握(H24~) ・ユズ生産者を対象にした園地の貸借や規模拡大などに関するアンケート調査実施(H27) <p><ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓></p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売拡大に向けた新商品開発(H24~) ・消費者との交流イベント(ゆずはじまる祭)実施(H18~) ・アルミ缶対応ドリンク充填ラインの導入(H26) 産業振興推進総合支援事業費補助金 32,833千円 	<p><新植、改植の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・果実の品質アップに向け、関係機関が連携して指導しており、生産者も適期防除等に取り組んでいる。また、改植事業も周知が進んでいる。 <p>⇒青果出荷受入 297t(H22)→337t(H27)</p> <p><将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地流動化モデル(案)として役場から園地造成事業等の提案があるなど、園地流動化に向けた取り組みが本格的に動き始めた。また、村内全域の園地台帳が完成した(H27) <p><ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓></p> <p>(JA土佐あき)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果汁販売の取り組み強化により、安定的な販売ができています。 ・継続的にEU向け青果輸出ができており、海外でのユズの認知度向上が図られている(H24~)。 ・EUに向けた青果輸出 H24:3t、H25:3t、H26:3t、 H27:4t ・全搾汁工場で県版HACCPを取得(H26) <p>(JA馬路村)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発 H24:シャーベット2種、ボン酢1種 H25:化粧品3種、ボン酢1種 H26:化粧品2種、調味料3種 ・加工品の販売実績が増加している。 ・アルミ缶ゆず飲料(ユズカン)販売開始(H27.3月~) ・搾汁施設で県版HACCPを取得(H27)

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
青果出荷受入量400 t (H22: 297 t) (H23: 370 t)	(H27年度末実績) 337 t	B	◆新植、改植の推進 ◆ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓 関係機関と連携して、講習会等での定期的な栽培指導や改植事業の周知を行ったことで、生産者の栽培技術・意欲が向上し、果実の品質アップに繋がり、青果出荷受入量の目標値がほぼ達成された。 また、販路開拓、果汁等の販売強化により、国内外でのユズの認知度向上が図られ、安定的な販売に繋がった。 さらに、新商品の開発による販売拡大や既存商品の改良により、化粧品やボン酢等のユズ加工品の販売実績は増加し、目標値を達成できた。	<p>・品質向上対策の取り組みの継続による青果出荷量、加工用果皮の出来高量の増加</p> <p>・隔年結果の是正による青果及び加工仕向け用ユズの安定生産</p> <p>・消費者との交流イベント等での商品PRや、加工施設を有効利用するための商品開発等に取り組みすることで、加工品の販売額増加</p> <p>(北川村)</p> <p>・園地台帳の活用方法の検討や園地流動化に向けた課題整理、園地造成事業などの流動化システムの確立に向けた取り組みを支援</p> <p>(馬路村)</p> <p>・作業受託組織の設立を含め、産地・地域を維持するための新たな仕組みや方向性について関係機関で検討</p>
作業受託等の新たな組織作り 北川村1組織	(H27年度末実績) 実績: 0組織			
作業受託等の新たな組織作り 馬路村1組織	(H27年度末実績) 実績: 0組織	B		
加工仕向量4,670 t (10%アップ) (H22: 4,250 t)	(H27年度末実績) 4,954 t	A+	◆将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり (JA土佐あき) 作業受託組織を設立する方向性で検討がなされてきたが、北川村において園地の流動化を進めることとなり、H26に園地調査を実施し、H27に園地台帳が完成したことにより、今後は園地台帳を活用した取り組みの実施が期待される。 (JA馬路村) H27にユズ生産者を対象にした園地の貸借や規模拡大などに関するアンケート調査をしたことにより、この調査結果を活用した取り組みの実施が期待される。	
加工用果皮の出来高 量 安芸: A品・B品1,000t (H23: 631t)	(H27年度末実績) 1,075 t	A+		
加工用果皮の出来高 量 北川: A品・B品 80t (H23: 31t)	(H27年度末実績) 43 t	A-	<課題> (JA土佐あき) ・ユズ銀行(作業受託組織H23未解散)に代わる新たな労働補完体制の検討 (JA馬路村) ・(株)ユズ組合による作業請負等の継続及び新たな仕組みの検討	
JA馬路村 加工品販売額 ユズ茶1.6億円 (H21: 0.8億円)	(H27年度末実績) 0.81億円	A-		
JA馬路村 加工品販売額 化粧品5,200万円 (H21 : 1,700万円)	(H27年度末実績) 1億7,000万円	A+		
JA馬路村 加工品販売額 ボン酢他ユズ加工品 20.7億円 (H21: 20億円)	(H27年度末実績) 27.7億円	A+		

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>3 ポンカンを活用した新商品の開発と販路の拡大</p> <p>《東洋町》</p> <p>東洋町の特産品であるポンカンを活用した商品開発と既存商品を含めての販路開拓を行う。</p> <p><事業主体> ・甲浦の果樹仲間</p>	<p><販路の拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西でのセールス活動（H24～27） ・新聞や県内情報誌【ほっとこうち】を活用した広告宣伝（H25） ・高知県産品eコマースサイト「高知家のええもん家」へ掲載（H26） ・まるごと高知お取り寄せ・贈り物カタログのオンライン掲載開始（H27前期のみ） ・ポンカンジュース販売用ディスペンサー購入（H27） 	<p><販路の拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西でのセールス活動（H24～27） <p>⇒新規取引先：4社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞や県内情報誌【ほっとこうち】を活用した広告宣伝（H25） <p>⇒既存商品の販売数の増加</p> <p>H22：1,807本 →H27：3,250本</p>
<p>4 「安田（あんだ）の白い夢」の販路の拡大と新商品の開発</p> <p>《安田町》</p> <p>マンゴー大福「安田の白い夢」を中心に、以前接触のあったバイヤーに対し、ロット数を確保した具体的な提案を行っていく。また、町内で生産される農産物を使用した新たな商品を企画開発し、県外を中心に販路開拓を行って、雇用の確保と生産者の所得の向上を図る。</p> <p><事業主体> ・安田町 ・生産者</p>	<p><商品の企画・開発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンゴー大福、地元産牛乳のシュークリーム、文旦やブルーベリーのタルト他20種類の洋菓子を製造販売 <p><生産体制の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造販売拠点「安田（あんだ）と夢ファクトリー『キララ』」の施設整備（H23）、開業（H24） <p><販路の開拓></p> <ul style="list-style-type: none"> ・まるごと高知でのテストマーケティング（H24） ・高知龍馬空港の直営売店での販売開始（H25.2月～） ・ニッポン全国物産展ご当地おやつランキング5位入賞（H25）、2位受賞（H27） ・東部博関連イベント等での販促活動の実施（H27） 	<p><生産体制の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間製造実績：34,000個（H26）、38,700個（H27） <p>⇒月産4,000個以上の製造能力を実証、販路拡大にあたって生産体制の充実を示すことができた（H26）。</p> <p><販路の開拓></p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏で140名から商品アンケートを回収（H24） <p>⇒てんこす、高知龍馬空港等、販路の拡大につながった。</p>
<p>5 白下糖の生産の拡大と観光への活用</p> <p>《芸西村》</p> <p>伝統ある芸西村の白下糖づくりを伝承し、白下糖の生産拡大と新たな加工品を開発・販売することにより、白下糖のブランド化（認知度アップ）と地域生産者の所得向上を目指す。</p> <p><事業主体> ・芸西村 ・芸西村製糖組合 ・生産者グループ</p>	<p><サトウキビ作付け面積の拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者が3名増加（H24） ・脱葉機購入による作業の効率化（H25） ・収量増加を目指し、植え付け後のビニール掛け作業を2カ月ほど前倒し（H24～） ・生産者が1名増加（H27） ・収穫量の拡大及び品質の統一化を目的に栽培歴を作成 <p><技術を継承する人材の育成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・村内男性（30代）に技術伝承を開始1名（H27） <p><白下糖の品質向上></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サトウキビ畑の土壌調査（H26） ・栽培暦の作成とそれに沿った栽培の開始（H26） <p><新たな商品の企画開発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品：「黒糖みつ」を「かっぱ市」で販売開始（H26） ・ふるさと納税の返礼品として活用開始（H27） <p><白下糖を活用した体験観光メニューの検討></p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝承館改修（製糖体験スペース増築）（H26） 高知県観光拠点等整備事業費補助金5,374千円 ・製糖体験モニターツアーの実施（H26） 	<p><サトウキビ作付け面積の拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> ・植え付け後のビニール掛け作業を2カ月ほど前倒ししたことにより収量が増加23t（H24）→31t（H27） <p><白下糖を活用した体験観光メニューの検討></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部博に合わせて製糖体験メニューを開始 体験人数43人（H27）

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
商品数 4アイテム (H22 : 2アイテム) 既存商品の販売数 (換算本数) 5,000本 (H22:1,807本)	(H27年度末実績) 2アイテム (H27年度末実績) 3,250本	A- A-	海の駅東洋町での販売や関西でのセールス活動を行ったこと等により、既存商品の販売数はある程度増加したが、これらの活動に取り組む事業者がボンカン生産者4人のグループであるため生産量が少ないことや、加工品の製造及び新商品開発、販路拡大等に取り組む人材の不足により、大きな伸びにまではなっていない。 <課題> ・商品の生産体制見直し ・ターゲット、営業方法、価格設定などの販売戦略の検討 ・営業体制の強化	・他事業者と連携し、既存商品の磨き上げや新商品の開発 ・東洋町のPRを兼ねたセールス活動（販路開拓など）の支援
売上高 100百万円 (H23：施設整備) (H24：生産開始)	(H27年度末実績) 2,472千円	A-	H24の「安田と夢ファクトリー『キララ』」の整備により、生産販売拠点が完成し、一定雇用は確保している。しかし、大都市圏での安定した販路の確保には至っていない。 <課題> ・導入した製造機械での本格生産に向けた大口の販路開拓 ・認知度の向上	・引き続き販売促進活動の実施による認知度の向上
サトウキビ収穫量 40 t (H22：20 t)	(H27年度末実績) 31 t	A-	生産者の生産意欲の高まりとともに、芸西村の伝統ある特産品（サトウキビ）の伝承意識も高まっており、生産量も増加した。 また、東部博（H27開催）に合わせて、体験観光メニューも開発される等、観光分野への活用も始まった。 <課題> ・製糖組合員の高齢化に伴い伝統技術の継承者（後継者）の育成 ・白下糖を活用した新商品・加工品の開発 ・サトウキビ作付面積の拡大 ・製糖体験メニューの磨き上げ（予約期限、最少催行人数等の見直しを含む）	・製糖組合による品質向上・収穫量拡大のための栽培歴の作成の継続 ・同組合が「かっぱ市」と協力しながら新商品や加工品の開発に取り組むことによる、伝統ある特産品（サトウキビ）の伝承 ・製糖体験メニューの磨き上げ

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>6 土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化</p> <p>《室戸市、東洋町》</p> <p>土佐備長炭の生産量の増大と後継者の育成を図る。</p> <p><事業主体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸市木炭振興会 ・室戸木炭生産組合（仮称） ・土佐備長炭生産組合 	<p><新規製炭者の育成と量産体制の強化></p> <p>《室戸市木炭振興会》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規研修生の受入れ H21～27：14人 （うちH24～27：4人） ・特用林産業新規就業者支援事業（県単）による新規研修生の募集（H27） <p>《土佐備長炭生産組合》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用し共同利用窯を設置。 H25：15t窯2基、12t窯2基 （12,148千円） ・新規研修生の受入れ H21～27：12人 （うちH24～27：5人） ・特用林産業新規就業者支援事業（県単）による新規研修生の募集（H27） <p><品質・規格の向上と新商品開発ほか></p> <p>《土佐備長炭生産組合》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品規格を10種から19種へ広げて、末端利用者ニーズに対応（H25） <p>《室戸市》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸市木炭振興計画の策定（H27） <p><共同出荷・販売の取組></p> <p>《土佐備長炭生産組合》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原木の共同購入、製品の共同出荷体制の確立（H21） 	<p><新規製炭者の育成と量産体制の強化></p> <p>《室戸市木炭振興会》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特用林産業新規就業者支援事業（県単）による新規研修生の受入れ2人（H27） <p>⇒販売額 64,000千円（H22） →129,360千円（H26）</p> <p>《土佐備長炭生産組合》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特用林産業新規就業者支援事業（県単）による新規研修生の受入れ2人（H27） <p>⇒販売額 1.43億円（H22） →1.93億円（H26）</p>
<p>7 木質バイオマス活用の促進</p> <p>《安芸市、芸西村》</p> <p>林地残材等を熱エネルギーとして利用していく。</p> <p><事業主体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐あき ・(有)安岡重機 ・高知バイオマスファーム ・高知東部森林組合 	<ul style="list-style-type: none"> ・木質ペレット製造工場の稼働（H22.11月～、（有）安岡重機） ・園芸用木質ペレットボイラーの設置 129基 うちH24～27：62基 産振前 H20：7基 産振後 H21～27：122基 	<ul style="list-style-type: none"> ・木質ペレットボイラーの導入 ：62基（H24～27） <p>⇒目標としている資源の利用量（5,000m³）を概ね達成した。</p>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性	
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括		
新規就労者確保 就労者 5名	(H27年度末実績) 5名	A+	中国炭の輸入量の減少に伴い、需要に供給が追いつかない状況にあり、早期の増産が目標。 生産者の育成とともに原木を供給する体制の強化も必要であり、カシ類以外の雑木の有効利用や伐り手の育成を行うことにより、安定した所得の確保にも取り組んでいる。 その結果、新規就労者の確保や共同窯の設置もすすみ、販売額の向上につながった。	・地域の基幹産業に育てるため、伐り手の育成等による原木供給体制の強化、生産者の育成及びオガ炭など派生商品の開発等を推進	
共同窯設置6基	(H27年度末実績) 4基				A
生産量の増産 30 t/年/基	(H27年度末実績) 22 t/年/基				A
新規商品開発 1商品	(H27年度末実績) 0商品				B
原木配給施設 1箇所	(H27年度末実績) 0箇所				B
ペレット生産量能力 1,500t/年 (H23 : 1,000 t/年)	(H27年度末実績) 729 t	B	木質ペレットボイラーの導入台数は目標を達成したが、導入推進に活用していた制度が見直されたことや、ペレットの安定供給に課題があること等から、今後の導入は、大幅に鈍化する見通し。 なお、ペレット製造ラインの稼働率は向上しており、安定生産に向けた体制は整ってきた。	・木質ペレットボイラーの設置台数は、地域アクションプランの目標値を達成し、資源利用量も目標を概ね達成したが、国の補助制度の見直しで、H27年度から木質ペレットボイラーの新規導入はなく、今後の導入も見込まれないため、現時点では地域独自の取り組みを進める状況になく、今後は産業成長戦略の位置付けのもとに全県的に支援 (H28.3月地域AP終了)	
木質資源利用ボイラー設置台数 100基 (H23 : 67基)	(H27年度末実績) 122基				A+

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>8 林業加工品の販売の促進</p> <p>《馬路村》</p> <p>木材加工品の販売を促進し、事業体の雇用の確保と経営安定を図る。</p> <p><事業主体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコアス馬路村 ・馬路村森林組合 	<p>《エコアス馬路村》</p> <p><国内展示会出展・新商品の開発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外の展示会等への出展（H21～） ・新商品Kutu-beraの開発（H25） <p>《馬路村森林組合》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期経営計画の策定（H24） <p>《全体》</p> <p><木製品の商品力・販売力強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬路村材加工協同組合が人工乾燥器1台を導入（H26） 高知県産材加工強化事業費補助金 28,237千円 	<p>《エコアス馬路村》</p> <p><国内展示会出展・新商品の開発></p> <p>インテリア・ライフスタイル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商談（H25）：126件 商談（H26）：10件 <p>⇒成約件数（H24）：3件</p> <p>成約件数（H25）：4件</p> <p>成約件数（H26）：1件</p> <p>元気四国物産展</p> <p>⇒成約<即売>件数（H25）：149件</p> <p>TOSAZAI展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商談（H25）：2件 <p>プレミアム・インセンティブショー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商談（H26）：34件 ・商談（H27）：28件 ・新商品の開発：1品（H25）
<p>9 芸東地域の水産物の付加価値の向上と販路の拡大</p> <p>《室戸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町》</p> <p>キンメダイや定置漁獲物など、地域の主要魚種について鮮魚販売、加工品販売の強化を図る</p> <p><事業主体></p> <p>〔鮮魚〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸東水産業改良普及協議会 <p>〔加工品〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(有)タカシン水産 ・高知県漁協 	<p><県内市場及び県外市場の販路拡大></p> <p>【キンメダイのPR活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸東普及協が大阪府内の量販店で宣伝販売を4回（延べ26店舗）実施（H26） ・全国漁業協同組合連合会のプライドフィッシュプロジェクトに「土佐沖どれキンメダイ」を登録（H26） ・芸東普及協が県内外のイベント等で試食販売を4回実施。また、ロシアの飲食店への試験輸出を3回実施（H27） ・室戸市調理師会が「室戸市観光びらき」でキンメダイのPR販売を実施（H27） <p>【定置網漁獲物の高鮮度処理による付加価値向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸定置協が神経締め技術の習得やサンプル出荷による評価を取得（H26） ・室戸定置協が蓄養生賞を整備し、神経締めを施した漁獲物の安定出荷体制を確保（H27） <p><商品開発、販売促進活動の実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県漁協とタカシン水産が連携し、キンメダイ冷凍フィレを開発、サンプル出荷による評価を取得（H25） ・中芸定置協が未利用漁獲物を用いた簡易加工品（イカ沖漬け）を開発（H26） ・タカシン水産がハダカイワシ（低利用魚）のフライ商品やウツボ（低価格魚）のたたき商品等を製造販売（H26） ・中芸定置協が新たな簡易加工品（二ロギのオイル漬け）を開発（H27） 	<p><県内市場及び県外市場の販路拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪の量販店と県漁協とでキンメダイの定期的取引が開始（H26） ⇒関西方面でもキンメダイの需要が高まり、魚価が向上 ・神経締めを施した定置網漁獲物について高い評価が得られ、業務筋との実取引が開始（H27） <p><商品開発、販売促進活動の実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・タカシン水産の新商品の開発：15品 ⇒キンメダイの冷凍フィレが業務筋等から高い評価を受けるとともに、地域の観光メニューであるキンメダイ用の材料として定着（H26） ⇒タカシン水産の加工品販売額が増加 H22 47,000千円 →H27 77,660千円 ・中芸定置協が開発した簡易加工品（二ロギのオイル漬け）の安定生産に向け、加領郷女性部との連携による体制を確保

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
木製品出荷額 233,000千円 (H22 : 233,000千円) 雇用者数59人 (H22 : 59人)	(H27年度末実績) 217,738千円 (H27年度末実績) 52人	B B	エコアス馬路村は、展示会・商談会への出展 などで、H27木製品出荷額は目標に対し 93.4%の実績となっている。また、馬路村森 林組合は、職員全員がワーキング方式による中 期経営計画の策定に参加したことなどにより、 組織が一丸となって、販売の拡大に取り組むな ど、営業体制が強化された。 <課題> ・営業部門の活動のさらなる強化 ・住宅相談会を開催していた森の情報館・ ECOASU馬路村(高知市南御座)の閉館 (H28,3月)に伴う、建築士との新たな企画、 会議の場の設定	・新商品の開発やアンケートを活用 した商品力の向上、協働の森参 加企業等への社用バックの提案等 による、木製品の出荷額及び雇用 者数の維持 ・高知市における新たな情報発信 手段の検討
(キンメダイ) 平均単価 1,200円/kg (H20~22平均: 1,146円/kg) (大敷漁獲物) 水揚金額15億円 (H22~24平均: 13.3億円) 加工品販売金額 120,000千円 (H22:47,000千 円)	(H27年度実績) 1,510円/kg (H27年度末実績) 12.4億円 (H27年度末実績) 77,660千円	A+ B A-	「土佐沖どれ金目鯛」のブランド名で関西市 場をメインターゲットとして売り込みを行って きた結果、フェア等での販促・PRにより高級 食材としてのキンメダイの認知度が向上し、平 均単価の上昇に繋がった。 また、冷凍フィレが業務筋等から高い評価を 受けるとともに、地域グルメのキンメ丼の材料 として定着し、販売額が増加した。 <課題> ・キンメダイの生産量の確保 ・高鮮度等を売りにした定置漁獲物など地域の 主要魚種の販路拡大 ・買い手のニーズを踏まえた生産・販売方法の 検討 ・新たな加工商品の開発 ・高鮮度処理技術の定着 ・簡易加工品の生産拡大 ・(タカシン水産)衛生管理者の育成	・これまでメインで取り組んで きたキンメダイのPR・販促活動 の継続 ・東部地域の重要漁業である定置 網の漁獲物(地元水揚金額の6割 前後)の付加価値向上(高鮮度処 理による差別化と販促活動、低利 用魚・低価格魚の利活用等)

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>10 加工体制の強化等によるシラスの魚価等の向上</p> <p>《安芸市》</p> <p>加工処理能力の向上等によってシラスの水揚げ量の増加、及び漁家所得の向上を図る。</p> <p>＜事業主体＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間企業 ・安芸漁協 ・安芸おじゃ娘 	<p>＜加工処理能力向上に向けた関係者協議と乾燥機等の機器導入＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラス加工施設・乾燥機等機器の整備 (H24) 産業振興推進総合支援事業費補助金 50,000千円 <p>＜処理能力向上に対応できる漁業生産体制の構築＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定した原魚確保の体制作り (H25～) <p>＜商品力、販売力の強化と新たな販路確保＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興アドバイザーの招へい H25 5回 H26 5回 H27 5回 ・安芸水産が営業・企画担当を2名新規採用 (H27) 	<p>＜加工処理能力向上に向けた関係者協議と乾燥機等の機器導入＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラス加工施設・乾燥機等機器の整備による生産体制の強化 ⇒雇用の創出 (H25～27) 16人 ⇒水揚げ金額の増加 189,231千円 (H23) → 213,019千円 (H27) <p>＜処理能力向上に対応できる漁業生産体制の構築＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラス加工施設を年間を通じて稼働させるめどが立った (H26) <p>＜商品力、販売力の強化と新たな販路確保＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品 (3種類) の完成
<p>11 海洋深層水の利用拡大</p> <p>《室戸市》</p> <p>室戸海洋深層水アクア・ファームにおける海洋深層水給水量の拡大を図る。</p> <p>室戸ジオパーク海洋深層水サイトとして、アクア・ファームの受け入れ体制を強化し、観光客へのPRを行う。</p> <p>また、海洋深層水の水産への利用について検討を行う。</p> <p>＜事業主体＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸市 ・深層水利用企業 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内外のイベント、講演等での深層水のPR (H21～) ・一般家庭での利用拡大のため、市の条例等を改正するとともに、市HPにて給水案内等を周知 (H26) ・室戸ジオパークサイト (観光ガイド) と連携した説明・PRができる体制づくり (H25～) ・高知県、室戸市、高知大学、深層水利用企業が連携する臨床試験の開始 (海洋深層水の長期飲用などによる健康増進効果等を検証 H26～28の3ヵ年事業) 	<ul style="list-style-type: none"> ・給水地域拡大により、市外の一般家庭への給水を開始 (H26～) ⇒市外給水者 H26 2名 → H27 9名 給水量 H26 1.2m³ → H27 22.9m³ ・スジアオノリ養殖施設は、養殖技術の定着や安定した販路の確保により、収支が黒字化し経営改善が図られた。(H27から室戸市による指定管理に移行)
<p>12 安芸市の地域食材を活用した商品づくりの推進</p> <p>《安芸市》</p> <p>安芸の安全・安心な地域食材を活用し、新たな加工品の開発と既存商品の磨き上げを行うことで、交流人口の拡大による安芸市の経済の活性化を図るとともに、生産者の所得の向上を目指す。</p> <p>＜事業実施主体＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸市 ・生産団体・グループ ・民間事業者・加工業者 ・安芸市観光協会 ・「はばたけ弥太郎」安芸市推進委員会 ・安芸「釜あげちりめん丼」楽会 ・安芸市商工会議所女性会 ・JA土佐あき婦人部 ・入河内大根のこそう会 	<p>＜事業者と連携した地域食材を活用した商品の開発や販路の拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新レシピ「安芸まるごと丼」(ナス、土佐シロ、シラス活用)の開発 (H25) ・マンゴーかき氷、焼きマンゴー、ブルーベリームースなどの新商品開発 (H26) ・入河内大根の加工品の試作 (H26) ・ちりめん丼楽会によるスタンプラリー実施 (H27) <p>＜飲食施設の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廓中心のさと館の施設改修 (H26) ・高知県観光拠点等整備事業費補助金 (H26) ※H27へ繰り越し 13,713千円 <p>＜人材の発掘と育成等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA土佐あき婦人部「商人塾」受講 (H24) ・安芸商工会議所女性部による「安芸市おいしいものマップ」作成 (H26) ・まるごと高知でのテストマーケティング (H25) <まる弥カフェ> ・農業創造セミナー受講 (H27) <メリーガーデン> 	<p>＜事業者と連携した地域食材を活用した商品の開発や販路の拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸「釜あげちりめん丼」提供店舗 16店舗 (H27) ・「安芸まるごと丼」提供店舗 6店舗 (H27) ・西日本ご当地じゃこサミット来場者数：延べ3万人 (H27) ・新商品の開発 ・入河内大根の加工品の試作 (H26) ⇒マンゴーかき氷、焼きマンゴー、ブルーベリームースなどの新商品開発 (H26) <メリーガーデン> ⇒農業創造セミナー受講によりメリーガーデンのカフェで提供するメニュー2品の完成 (H27)

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
水揚げ金額 201,000千円 (H23.1~12: 189,231千円)	(H27年度末実績) 213,019千円	A+	<p>シラス加工施設の整備により、シラスの加工量や販売金額は着実に増加するとともに、新たに雇用も増加したが、漁獲量の増加に向けた取り組みは十分とはいえず、漁家所得の向上にまでは至っていない。</p> <p>今後、漁業者・漁協・シラス加工業者との協議を継続し、漁業者の所得向上に繋がるよう検討していく。</p> <p><課題> ・シラスの付加価値向上に向けた取り組み ・加工施設の加工能力に見合った原魚の確保（漁業者の理解と協力（操業時間の拡大等）が必要）</p>	<p>・シラスを安芸の特産品とし、地場産業の振興、観光客の誘致など経済効果に繋がるよう、地元でチリメン丼などを提供する店舗の拡充や新メニューの開発、食のイベント開催による情報発信等について、飲食店等も巻き込みながら地域食材の良さをPR</p>
アクアファームの海洋深層水使用料 35,000千円 (H22 : 27,000千円)	(H27年度末実績) 29,224千円	A-	<p>室戸ジオパークサイトの1つとして、連携した説明・PRができる体制づくりが図られるなど、深層水のPRのための新たな取り組みも行われている。</p> <p>また、高知県、室戸市、高知大学、深層水利用企業が連携する臨床試験等が始まるとともに、アクア・ファームでの給水対象者を室戸市民から高知県民に拡大するなど、利用拡大に向けた取り組みが進み、給水量の増加につながっている。</p> <p>スジアオノリ養殖施設については、養殖技術の定着や安定した販路の確保により、経営改善が図られた。</p> <p><課題> ・深層水のPR活動の積極的な実施 ・深層水供給の維持・向上に対応するための設備の維持・更新 ・深層水の優位性の早期解明</p>	<p>・深層水利用の拡大を図るため、深層水商品の販売促進や水産業への利用等をさらに促進 ・健康増進効果等を検証する深層水の臨床試験の進捗を注視 ・スジアオノリ養殖事業のさらなる発展</p>
—	—	—	<p>釜あげちりめん丼や安芸まるごと丼など、地域食材（ユズ、ナス、シラス）を活かした食の提供が進み、交流人口の拡大が図られている。</p> <p>また、新たなスイーツ（マンゴーかき氷、マンゴーのタルト等の加工品）開発の動きも始まったが、各事業主体ごとの取り組みが中心であり、地域を巻き込んだ取り組みにまでは至っていない。</p> <p><課題> ・地域食材を活用した新たな加工品等の開発と販売 ・地域食材を活用する店舗の拡大</p>	<p>・地域食材を活用したメニューや商品の開発を、既存の観光資源の磨き上げ等観光客の満足度の向上を図る取り組みと一体的に推進することによる、交流人口のさらなる拡大</p>

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>13 地域食材を活かした奈半利町の特産品づくりの推進</p> <p>《奈半利町》</p> <p>地域資源を活用した加工品をつくる施設を整備することにより、地域特産品の生産と販路の拡大を図るとともに地域の生産者の収入の安定化を目指す。</p> <p><事業主体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈半利町 ・奈半利なんでも市加工グループ ・いちじく加工品グループ ・高知県漁協加額郷支所女性部 ・JA土佐あき 	<p>【JA加工施設（奈半利味噌）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興推進総合支援事業費補助金を活用し、農産加工施設（JA土佐あき）の増床及び機械を追加導入（H26） 総事業費 9,694千円 産業振興推進総合支援事業費補助金 3,953千円 <p>【農水産加工施設<町>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発及び担い手の人材育成のための、エリアマネジメントの実施（H26） ・産業振興アドバイザーの招へい（H26 3回） ・地域づくり支援事業費補助金を活用した加工施設の設計及び建設に着手（H27） 総事業費 36,820千円 地域づくり支援事業費補助金 17,194千円 <p>【水産加工施設<町>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発及び担い手の人材育成のための、エリアマネジメントを実施した（H26） ・地域づくり支援事業費補助金を活用した加工施設の設計及び建設に着手（H27） 総事業費 48,592千円 地域づくり支援事業費補助金 20,000千円 	<p>【JA加工施設（奈半利味噌）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈半利味噌を増産する体制が整った。 <p>【農水産加工施設<町>】</p> <p>【水産加工施設<町>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両施設ともに、アドバイザーによるワークショップの継続等により、H28.5月オープンに向けた商品ラインナップを構築
<p>14 地域資源を活用した新商品の開発と販路の拡大</p> <p>《田野町》</p> <p>田野町及び周辺地域の地域資源を活用した商品を開発し、販路を拡大していくことにより、雇用の確保と地域の経済の活性化を目指す。</p> <p><事業主体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国部品(株)中芸事業所 ・(有)松崎冷蔵工業 ・民間企業 	<p><商品開発と製品化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・塩シャーベット「塩姫」等、生姜のお菓子「爪の垢」の開発、販売開始（H24～25） ・天日塩アイスの一般向け商品の開発（H25） 総事業費 1,182千円 産業振興推進総合支援事業費補助金 514千円（ステップアップ事業） <p><販売ルートの開拓></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外の商談会等への参加（H24～） ・地域イベントへの出店（H24～） ・まるごと高知でのテストマーケティング（H24） 	<p><販売ルートの開拓></p> <ul style="list-style-type: none"> ・商談件数（H24）：9件 ・商談件数（H27）：9件 ⇒ 成約件数（H27）：8件

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
売上額 農産加工品 7,500千 円 (H25 : 5,000千 円)	(H27年度末実績) 5,800千円	A-	<p>JA土佐あきの農産加工施設（味噌加工施設）の増床及び製造機器（味噌充填機1台、自動麹発酵機1台）の追加導入により、奈半利味噌を増産する体制が整った。</p> <p>また、農水産加工施設及び水産加工施設についても、H28.5月の稼働開始に向けて施設整備が進んでいる。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存商品の販路拡大 ・新商品の開発及び販売体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備した農水産加工施設（奈半利のおかって）及び水産加工施設（加領郷魚舎）がそれぞれH28.5月から営業を開始 ・地域特産品の生産と販路の拡大による生産者所得の向上
売上額 水産加工品 2,000千円 (H25 : 1,500千 円)	(H27年度末実績) 4,060千円			
酒粕商品販売額 42,000千円 (H23 : 4,200千円)	(H27年度末実績) 10,052千円	A-	<p>地域資源の活用により酒粕スイーツ、塩シャーベット、生姜のお菓子等の開発・販売を行い、一定の販路を確保することができた。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上増加に向けた販路拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・田野駅屋を核とした田野町の地域振興策として、地域資源を活用した新商品の開発・販売の取り組みと町内の観光素材と連携した交流人口の拡大の取り組みを一体的に推進

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>15 完全天日塩の生産の拡大と観光への活用 《田野町》</p> <p>製塩ハウス施設等の整備と併せて新たな就業者の確保・育成を行うとともに、塩づくり体験を通して、完全天日塩の産業化と交流人口の拡大を図る。</p> <p><事業主体> ・田野町 ・民間事業者</p>	<p><塩づくり体験・研修施設の整備> ・製塩体験施設の整備（H24） 総事業費8,296千円 高知県観光拠点等整備事業費補助金 4,147千円 ・製塩体験施設オープン（H25） ・台風被害によりH26.8月以降休止していた製塩体験施設（町施設）での見学・体験受入再開（H27.4月～） ・町内の産業振興や移住促進等の事業とあわせて、体験施設運営等にかかわる地域おこし協力隊を導入（H25：4人、H26：2人、H27：2人）。 ・塩関係の掲示物の多言語表記整備 ・製塩体験施設の運営マニュアル作成</p>	<p>・新たに整備された製塩体験施設において体験受入の取り組みが開始された。（H25） ⇒受入人数（体験） H23：330人 → H27：408人</p>
<p>16 キラメッセ室戸「楽市」の機能強化 《室戸市》</p> <p>地域食材を加えたジェラートの製造や地域産品の加工を行う施設等を整備して、新商品を開発するとともに、商品の充実や販売を促進することにより、生産者の所得向上を図る。</p> <p><事業主体> ・室戸市</p>	<p>・県外の店舗・アンテナショップ等への野菜等の販売 ・基本構想・基本計画を策定（H25） 道の駅キラメッセ室戸を一体的に機能強化していく方向性が定まった。 産業振興アドバイザーの招へい 1回 ・加工場の整備及び駐車場の造成、トイレの改修（H26～） 産業振興推進総合支援事業費補助金 47,064千円</p>	<p>・特産品インターネット通信販売サイトの制作（H24） ・新商品開発<3品> ⇒販売額：H23 256,650千円 H24 268,305千円 H25 271,538千円 H26 308,335千円 H27 342,172千円</p>
<p>17 海の駅を拠点とした地域振興 《東洋町》</p> <p>高知県の東の玄関口である東洋町に、観光拠点施設や地元特産品の販売・加工施設、飲食施設等の機能を付加した「海の駅」を整備することにより地域の活性化を図る。</p> <p><事業主体> ・東洋町</p>	<p><海の駅の整備> ・H24.7月の火災による焼失のため、海の駅の施設整備を実施（H25） 総事業費 95,175千円 産業振興推進総合支援事業費補助金 50,000千円</p> <p><地域の情報発信> ・フェイスブックによる情報発信（H26.2月～） ・東部地域の観光施設との連携によるツアー客の誘致（H27） ・各種イベントの開催（H26～）</p> <p><高知県東部・徳島県南部等の道の駅との連携> ・「かっぱ市」（芸西村）の施設見学を実施（H26）</p>	<p>・海の駅の整備による販売等の再開 ⇒売上金額 H23年度：127,037千円 →H27年度：161,151千円 ⇒雇用の創出（H25～27） 11人（うち長期8人 短期3人）</p>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
体験受入回数100回 (H23:50回) 受入人数 体験960人 (H23 :体験330人) 受入人数 見学1,040人 (H23 :見学458人) 生産量 6t (H23:2 t)	(H27年度末実績) 92回 (H27年度末実績) 408人 (H27年度末実績) 193人 (H27年度末実績) 6t	A A- B A+	県観光拠点等整備事業費補助金を活用し製塩体験施設(町施設)を整備したことにより、体験受入による交流人口の拡大に取り組む環境ができた。 なお、台風被害によりH26.8月からH27.3月まで同施設での見学・体験が休止していたが、H27.4月から同施設が再開したことにより、H27年度については一定の体験受入回数や人数に回復した。 また、地域おこし協力隊の導入により、体験製塩施設の企画・運営等に関わる人材の育成が進んでいる。 <課題> ・新規就業者の確保に向けた人材育成 ・新規就業者の独立に向けた環境整備 ・更なる集客が見込まれる新たな体験メニューの充実と田野町内での周遊促進	・新規就業者の確保に向けた人材育成のために町が塩職人研修用ハウスを建設し、民間事業者の指導のもと、塩づくりの修業と塩の増産に活用(H28.6月町議会で補正予算(製塩ハウス用地取得費及び建設実施設計委託)を措置) ・製塩体験施設について、更なる集客のための体験メニュー作りや町内外へのPR ・観光客の周遊を図り、H29に開幕する幕末維新博と連動した取り組みの実施
直販所「楽市」来場者 258,000人 (H23:244,968人)	(H27年度末実績) 246,958人	A-	加工施設の整備に合わせて、新たな加工品の開発等、来場者の増加や満足度の向上に向けた取り組みが進んでいる。 また、県外向けの販売が好調で、販売額は毎年増加している。現在、取扱商品の拡大のため、庭先集荷等の新たな取り組みも試行している。 <課題> ・新たな取扱い商品の発掘 ・夏場の生鮮品不足 ・農産物出荷者の高齢化に伴う取扱い商品の減少	・運営主体による農業経営の可能性及び持続可能な集荷体制の構築の検討による、取扱商品の安定及び拡大
来場者数180,000人 (H22:153,446人)	(H27年度末実績) 174,122人	A	H26.1月のオープン以降、地域特産品を活用した飲食メニューの提供等により、売上金額、来場者数とともに焼失前を上回っているほか、11名の雇用創出にもつながっており、地域活性化の拠点施設としての機能を果たしている。 <課題> ・運営体制の強化 ・地域産品を活用した加工品の開発 ・観光拠点機能の付加	・地域特産品を活用した加工品の製造・販売による地産外商及び観光拠点としての機能の付加による、地域活性化の拠点施設としての機能強化

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>18 道の駅「田野駅屋」の機能強化（特産品開発及び情報発信）と施設整備等</p> <p>《田野町》</p> <p>地域の特産品や観光情報の発信機能を強化し、田野駅屋の集客力を最大限に有効活用する。併せて地域農産物等を活用した加工品を開発・販売し、消費拡大を図っていく。さらに、それらに資する施設整備等を行う。</p> <p><事業主体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・田野町 ・道の駅指定管理者 ・加工施設指定管理者 ・生産者組織 	<ul style="list-style-type: none"> ・直販コーナーのレジ更新に伴うPOSシステム導入（H26） ・東京都内で高知県野菜を取り扱っている店への野菜等の販売や田野町のふるさと納税のための返礼品の商品開発等（H27～） ・地域イベントへの参加や独自イベント開催により、田野町や地場産品のPRに貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ・国道沿い、ごめんなほり線田野駅の敷地内という地の利を生かし、地域の特産品販売や観光情報発信を行っている。 ・20万人超の入込数と2億円超の売上高を安定的に保っている。
<p>19 地場産品直販所「かっぱ市」の機能強化</p> <p>《芸西村》</p> <p>地場産品直販所「かっぱ市」のリニューアルオープンに伴い、花卉類・鮮魚類の販売を拡充させ、他の直販所と差別化することで売上の増加を図るとともに、地域経済の活性化を図る。</p> <p>村内で生産される農産物等（ピーマン・黒砂糖等）を使用した新たな商品を企画開発し、村内産品の付加価値を高める。</p> <p><事業主体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸西村 ・(有)かっぱ市 ・生産者グループ 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存加工品の磨き上げ等（H25） 産業振興アドバイザーの招へい 3回 ・H24.10月～店内調理場での弁当等加工品販売開始 ・店内にイートインコーナー設置（H26） <p><新たな商品の企画開発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品：「黒糖みつ」の販売と黒糖みつを使用したかき氷の販売開始（H26） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドレッシング「ばかったれ」のブラッシュアップ ⇒販売数の増 H24.6月～H25.5月 67個 →H26.6月～H27.5月 627個 ・「黒糖みつ」の製造・販売 ⇒販売数 H26.6月～H27.5月 278個

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
—	—	—	<p>売上金額・来場者数は、堅調に推移しているものの、店舗の狭隘などの理由により現状のままでは大きな伸びが期待できない状況である。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の方向性について町の方針の明確化（機能強化のための施設整備等、小さな拠点化など） ・直販・飲食機能の強化（店舗の狭隘、生産者の高齢化に伴う野菜等の商品不足、地産外商への取り組み等） ・地元食材を活用した魅力ある加工品の開発・販売の強化 ・情報発信機能の強化 ・経営や企画立案に係る人材育成 ・町と道の駅指定管理者間の情報共有体制の確立 	<p>・H28から始まった町、道の駅指定管理者、地域本部による情報共有会議の継続実施による、関係者間での課題共有及び解決に向けた取り組み</p>
<p>売上額106,000千円 (H22:87,000千円)</p>	<p>(H27年度末実績) 152,343千円</p>	A+	<p>既存加工品のブラッシュアップや売り場の改善に取り組んだこと等により、売上金額は目標を大きく上回った。今後は集落活動センターとの連携等により、さらなる売上の増加に取り組む。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・花卉販売量の確保 ・サトウキビ等を活用した新商品の開発 ・商品集荷システムの構築 ・テイクアウト商品の充実 	<p>・夏場の商品不足の解決に向けた加工品の開発等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製糖体験メニューの磨き上げ ・集活センターとの連携による外商活動の推進 ・庭先集荷などの実施による取扱い商品の安定供給に向けた仕組みづくり

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>20 安芸地域の観光振興の推進 ～東部地域博覧会の開催～</p> <p>《安芸地域全域》</p> <p>安芸地域における市町村が連携して地域博覧会を開催することを契機に、安芸地域外からの誘客を増加させて地域経済の活性化を図る。</p> <p>併せて、地域博覧会により蓄積された広域観光のノウハウを活かすために、広域観光のプロモーション機能や地域コーディネート機能を持つ組織をつくることにより、地域博覧会後における広域観光の推進体制を整備する。</p> <p><事業主体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸広域市町村圏事務組合 ・市町村 ・観光協会等 ・地域団体 ・民間事業者 ・高知県東部地域博覧会推進協議会 	<p><安芸地域における地域博覧会の開催></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸広域市町村圏事務組合による東部博基本計画策定（H25） 高知県観光拠点等整備事業費補助金 1,763千円 ・東部博推進協によるプロモーション活動（H26、27） 高知県広域観光推進事業費補助金（H26）30,000千円 （H27）69,682千円 産業振興アドバイザーの招へい1回（H27） ・安芸広域市町村圏事務組合による東部博開催に関連したセールス活動や誘致活動（H26） 高知県広域観光推進事業費補助金 1,474千円 ・「高知県東部地域博覧会」開催（H27.4.29～12.23） ・東部博スペシャルイベント「安芸室戸パシフィックライド2015」開催（12/6） <p><周遊観光や教育旅行の商品づくり、スポーツ大会等の誘致と観光拠点等の磨き上げ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行等の誘致及び体験型観光の内容充実 高知県観光拠点等整備事業費補助金 ・安芸広域市町村圏事務組合による教育旅行誘致等（H24） 1,749千円 ・馬路村による観光素材収集、パンフレット作成（H25） 1,422千円 高知県広域観光推進事業費補助金 ・安芸広域市町村圏事務組合による教育旅行誘致用の広域パンフレット作成（H25） 1,691千円 ・体験型観光の内容充実や教育旅行等の誘致（H27） 2,469千円 ・観光施設等整備 高知県観光拠点等整備事業費補助金 ・安田町の化石体験観光施設整備（H24） 5,359千円 ・奈半利町ふるさと海岸への屋外トイレ等の整備（H26） 6,597千円 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな体験プログラムの造成 15件 ・教育旅行誘致→28年度：2校、29年度：4校の教育旅行の受入が決定 ・安田町の唐浜層化石発掘体験場を整備 ・奈半利町ふるさと海岸の屋外に手洗い場を兼ねたトイレを設置 <p>⇒東部博開催による集客増（宿泊者数を含む） 2,313,000人（H23～25平均）→ 2,540,050人（H27.1～12月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（一社）高知県東部観光協議会設立（H28.2月） ・民泊登録世帯数 H27当初の32軒から95軒に増加（H28.3月末現在）

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
圏内主要施設訪問者数 2,556,000人 (H23～25の 平均値 : 2,180,000人)	(H27年度末実績) 2,401,821人 (H27.1～12月)	A-	高知県東部地域博覧会(H27.4.29～12.23)の開催により、新たなイベントや体験プログラム等の造成、観光素材の磨き上げが行われた。 さらに、東部博の広報PR、セールス活動により、東部地域の観光素材が広く認知された。 東部博で培った安芸地域の観光のノウハウを引き継いで誘客の取り組みを行っていく広域観光組織(一般社団法人高知県東部観光協議会)がH28.2月に設立され、28年度からの事業の実施により、東部地域の市町村や観光団体等の更なる連携が期待される。 H27に民泊の受入世帯拡大のための各世帯個別訪問を実施した結果、H28.3月末の登録軒数が95軒となったことで、H28.5月の教育旅行の生徒の民泊を受入れる体制が整備された。 <課題> ・東部博をきっかけに実施したイベントの継続開催に取り組むことによる、新たなターゲット層の獲得とその定着 ・観光協会等と東観協との連携と目標の共有 ・市町村観光協会の機能強化 ・戦略的な商品造成 ・教育旅行に向けた民泊及び体験メニューの充実と人材育成	・(一社)高知県東部観光協議会を中心とした、県内外への情報発信等による入込客数の確保、体験プログラム等の磨き上げ、マーケティングに基づく戦略づくり、地域内の連携強化・地域住民の巻き込み、人材育成
圏内宿泊者数 150,000人 (H23～25の 平均値 : 133,000人)	(H27年度末実績) 138,229人 (H27.1～12月)		A-	

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>21 世界ジオパーク認証を活かした観光の振興</p> <p>《室戸市》</p> <p>世界ジオパークに認証された室戸ジオサイトにおける受入体制の整備や商品開発に取り組み交流人口の拡大を図っていく。</p> <p>＜事業主体＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸市 ・室戸ジオパーク推進協議会 ・室戸市観光協会 	<p>＜ガイド育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジオガイド養成講座等の実施（H21～） ・接客マナー向上に向けた研修の実施 産業振興アドバイザー招へい2回（H27） <p>＜拠点施設整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸世界ジオパークセンターの整備（H26） 外構工事実施設計等（総事業費7,039千円） 高知県観光拠点等整備事業費補助金4,671千円 外構工事（総事業費92,625千円） 高知県観光拠点等整備事業費補助金34,944千円 展示整備事業（総事業費186,745千円） 高知県観光拠点等整備事業費補助金124,496千円 <p>＜サイト整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行当黒耳海岸サイトの整備（H26） 実施設計（総事業費2,430千円） 高知県観光拠点等整備事業費補助金1,215千円 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジオパークガイドの育成や室戸世界ジオパークセンターの整備により受入体制が整いつつある。 ⇒ジオパークガイド登録者数 20人（H22）→53人（H27） ⇒ジオパーク関係施設来訪者 53,473人（H22） →148,970人（H27）
<p>22 「海の駅とろむ」を核とした交流人口の拡大</p> <p>《室戸市》</p> <p>室戸岬漁港（新港）の「海の駅とろむ」を核として、マリンレジャーによる交流人口の拡大を図る。</p> <p>室戸ドルフィンセンターの待合施設やシャワー施設を備えた施設建設により、利用者満足度の向上、物販スペース等の拡大による事業売上げの向上を図る。また、陸上プール設置及びイルカ飼育頭数を増やすことによる体験者の増加を図る。</p> <p>＜事業主体＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人室戸ドルフィンプロジェクト ・室戸市 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな施設及び陸上プールを整備（H24） 高知県観光拠点等整備事業費補助金30,466千円 ・陸上プールに接続した補助プール（直径5m、水深1.5m）を整備（H25） 高知県観光拠点等整備事業費補助金4,052千円 <p>＜情報発信＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部博に関連するテレビ・雑誌等の取材対応や、フェイスブックによる情報発信（H26） ・リピーターを増やす営業戦略づくり（H26） 産業振興アドバイザー招へい1回 ・イオンモール高知にてFM高知主催の公開録音イベントに出展（H27） ・ホームページの多言語化（H27） ・各種イベントの開催（H27） ・冬季限定プログラム提供開始（H27） 	<p>＜ドルフィンセンターの機能充実＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設及び陸上プールの整備（H24） ⇒物販・休憩スペースも確保され、来場者の満足度の向上につながった。 ・補助プールの整備（H25） ⇒幼児や高齢者も安心して利用できる体験プログラムが開発が可能となった。 ⇒来場者の増 H24年度来場者数 22,113人 H25年度来場者数 31,626人 H26年度来場者数 24,431人 H27年度来場者数 29,443人 ・WiFi整備完了（H27）
<p>23 岩崎弥太郎生家を核とした観光振興</p> <p>《安芸市》</p> <p>岩崎弥太郎生家エリアや土居廓中エリアを観光拠点として磨き上げを実施し、交流人口の拡大による安芸市の経済の活性化を図る。</p> <p>＜事業主体＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸市 ・安芸市観光協会 ・「はばたけ弥太郎」安芸市推進委員会 ・安芸市観光ボランティアガイドの会 ・民間事業者 	<ul style="list-style-type: none"> ・安芸市観光ボランティアガイド養成講座等の開催（H24～） ・「廓中ふるさと館」の改修（H26） ※H27繰越 高知県観光拠点等整備事業費補助金13,713千円 ・安芸観光情報センターの改修（H26） 高知県観光拠点等整備事業費補助金498千円 ・岩崎弥太郎の銅像移転（H26） 	<ul style="list-style-type: none"> ・安芸市観光ボランティアガイド会員の増加 30名（H25）→33名（H27） ・岩崎弥太郎生家の隣接地に銅像が移転（H26） ⇒生家と銅像、互いの観光施設としての魅力が向上した。 <p>※参考〈H27実績〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内年間観光客数：272,176人 ・市内年間宿泊者数：27,724人 ・ちりめん丼販売数：50,000食

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
ジオパークガイド登録者数40人 (H22:20人)	(H27年度末実績) 53人	A+	継続したガイド養成と、拠点施設である「室戸ジオパークセンター」の整備、さらには東部地域博覧会の効果もあり、交流人口は大きく拡大した。 今後は、観光客の滞在時間の延長と周遊性の向上により、地域経済への波及効果の拡大を図る必要がある。 <課題> ・ジオパークセンターの機能強化 ・ジオツアーに関わる人員の確保 ・受入体制の強化	・”室戸ジオパーク”の魅力向上 ・室戸世界ジオパークセンターを起点とする周遊モデルコースの造成 ・ガイドブック作成による情報発信の充実 ・受入体制の強化
ジオパーク関係施設来訪者 70,000人 (H22 : 53,473人) ※ドルフィンセンターを含む	(H27年度末実績) 148,970人			
室戸ドルフィンセンター来場者数 27,000人 (H22 : 22,181人)	(H27年度末実績) 29,443人	A+	新たな施設と陸上プールを整備したことにより、安全安心にふれあい体験が利用できるようになった。また、イルカ飼育頭数の増加、物販・休憩スペースの整備もされたことで来場者の満足度が向上し、交流人口の拡大につながった。 室戸ドルフィンセンターの指定管理者であるNPO法人の現場体制が見直された結果、来客の受付や誘導などがスムーズに行えるようになった。 また、財務面をはじめ、広報、営業等の改善やとろむサイトで計画されているダイビング事業との連携等についての検討も始まっている。 <課題> ・ジオパークサイト等地域の観光素材を組み合わせた情報発信やメニュー作り ・より多くの集客を図るための広報・営業の検討 ・周辺施設等との連携による集客	・室戸ドルフィンセンターの受入体制の充実や営業活動の強化 ・ダイビング事業など新たな体験メニュー作りの推進
—	—	—	ボランティアガイドの力量アップや観光に係る人材が育成されてきたことにより、観光拠点としての魅力が向上した。 また、地域おこし協力隊が中心となって、「伊尾木洞」の観光施設としての磨き上げや、安芸市観光協会が主催で東京都での地場製品の販売が行われる等、新たな観光関連の取り組みが行われるようになってきた。 <課題> ・岩崎弥太郎を活かした取り組みの強化 ・新規ボランティアガイドの獲得	・三菱グループとの連携強化による岩崎弥太郎の出身地ならではの観光資源のさらなる充実 ・志国高知幕末維新博に向け、他の観光施設と連携すること等による誘客の増加

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>24 東洋町における体験観光の推進</p> <p>《東洋町》</p> <p>サーフィンやダイビングなどを中心としたマリンスポーツ等の体験を目的とした修学旅行や企業研修、サークル活動の受入れ施設を整備するとともに、新たな体験プログラムの開発を行う。</p> <p><事業主体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東洋町 ・地元マリンスポーツ関係事業者 ・東洋町観光振興協会 	<p><海の駅を拠点とした体験観光プログラムの開発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東洋町観光振興協会の観光振興補助事業を活用し地元ダイビングスクールが新たな体験観光プログラムを開発（H25） ・体験ガイド認定事業の実施（H26～） <p><受け入れ施設の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・白浜キャンプ場炊事場を整備（H26） <p>高知県観光拠点整備事業費補助金 1,362千円</p> <p><宣伝・広報></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東洋町観光ガイドブック「東洋町探訪」作成（H25） ・東部博イベントの開催（H27） ・東洋町観光振興協会の課題整理と人材育成 産業振興アドバイザー招へい3回（H27） ・こうちカメラ女子旅in東洋町モニターツアーの実施（H27） 	<ul style="list-style-type: none"> ・白浜キャンプ場炊事場の整備（H26）により、キャンプ場利用者の利便性が向上した。 <p>⇒白浜キャンプ場利用者数 1,424人（H23）→1,919人（H27）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験観光プログラムの開発 14種類（H26～） ・体験ガイド 7団体2個人を認定（H26～）
<p>25 藤村製絲を活用した観光振興</p> <p>《奈半利町》</p> <p>藤村製絲を活かした観光振興をなはり浦の会とともに交流人口の拡大を図る。</p> <p><事業主体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤村製絲 ・なはり浦の会 ・奈半利町 ・なはり観光文化協会 	<p><観光文化施設（記念館）の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤村製絲記念館を建設（H26） <p>総事業費86,940千円 高知県観光拠点等整備事業費補助金 37,471千円</p> <p><情報発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こうちじん」（高知県観光コンベンション協会発行のパンフレット:H27.3月発行）での観光スポットとしてのPR 	<ul style="list-style-type: none"> ・東部地域博覧会スタートと同日（H27.4.29）に藤村製絲記念館が開館し、中芸地区に新たな観光施設が加わった。
<p>26 中芸地区における広域観光の推進</p> <p>《奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村》</p> <p>官民が協働して、地域内にある観光資源を磨き上げ魅力のある滞在型・体験型旅行商品づくりを行いながら、観光客の増加を図り、地域の経済の活性化を推進する。</p> <p><事業主体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中芸広域連合 ・中芸観光協議会 ・中芸商工会 ・観光関連事業者等 	<p><中芸観光協議会の設立と受入体制の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中芸観光協会の設立（H24） <p><魅力ある旅行商品づくりと観光情報の発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中芸観光ビジョンの策定（H24） <p>総事業費3,919千円 高知県観光拠点等整備事業費補助金 1,500千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬路村観光パンフレットの作成（H25） <p>高知県観光拠点等整備事業費補助金 1,422千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GW期間中の臨時観光案内（H25～）、S W期間中の臨時観光案内（H27） ・GW期間中の中芸観光キャンペーンの開催（H26） ・高知県東部地域博覧会における「中芸パビリオン」（「モネの庭」フローラルホール）の運営（常設展、夏休みまるごと体験展、魚梁瀬森林鉄道ジオラマ展、天然写真家前田博史写真展、中芸ゆずづくし展の開催）及びコアイベントの実施（中芸食のめぐみ満祭フェアオープニングイベント・魚梁瀬森林鉄道アート&ライブ）（H27） ・「中芸食のめぐみ満祭フェア」スタンプラリー実施（H27.5.10～12.23） ・モニターツアーの実施等による中芸地域の観光素材の磨き上げ ・地域メニューの開発（H26） <p>産業振興アドバイザーの招へい 3回</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中芸観光キャンペーン参加者：22人（H26） ・臨時観光案内所来訪者：H26 673人 H27(GW) 1,058人 (SW) 750人 ・高知県東部地域博覧会におけるコアイベントへの参加者 中芸食のめぐみ満祭フェアオープニングイベント：約2,800人（H27.5.10） 魚梁瀬森林鉄道アート&ライブ（5回）：約480人 ・中芸食のめぐみ満祭フェアガイドブック発行による中芸地域の食情報の発信（中芸食のめぐみ満祭フェアスタンプラリーに109通応募） ⇒東部地域への誘客が図られた。

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
—	—	—	<p>東部地域博覧会の開催を契機に、町観光協会を中心として、「海上散歩（SUP）」や「こけら寿司作り体験」など14種類の新たな体験活動プログラムの開発が行われたほか白浜キャンプ場炊事場の整備によりキャンプ場利用者の利便性が向上し、交流人口の拡大が進んでいる。</p> <p><課題> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を生かした体験プログラムの開発 ・受入施設の整備 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的サーフィン大会の誘致や新たな体験プログラムの開発、体験ガイドの認定といった町観光協会の取り組みの支援 ・受入施設の整備に向けた町との協議
町並みガイド実績 800人/年 (H24：390人)	(H27年度末実績) 301人	B	<p>H27.4.29に藤村製絲記念館が開館したことにより、奈半利町の町並み散策の魅力が向上したが、周知が十分なされていない状況であるため、今後周知を図っていく必要がある。</p> <p><課題> <ul style="list-style-type: none"> ・藤村製絲記念館の活用拡大 ・関係機関との連携 ・広報等の強化 </p>	H28.3月に立ち上がった奈半利町集落活動センターとの連携による、交流人口拡大
—	—	—	<p>H24に策定した中芸観光ビジョンに基づき、中芸地域の観光資源の磨き上げや情報発信等に取り組んできた。</p> <p>東部地域博覧会（H27.4～12月）の開催期間中は、中芸パビリオン（モネの庭内）でのイベントや展示を行い、東部博の集客に寄与した。</p> <p>「中芸食のめぐみ満祭フェア」スタンプラリーのPRパンフレットで参加店舗や料理等の紹介を行うなどにより、観光客や県民に対し、東部地域のレストラン等の知名度の向上が図られた。</p> <p><課題> <ul style="list-style-type: none"> ・中芸観光ビジョンに掲げられている中芸観光協議会の法人化の実現 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広域観光組織（（一社）高知県東部観光協議会）の設立（H28.2月）に伴い、中芸観光協議会はH28.5月末をもって解散したが、中芸地区の観光振興については、安芸地域全域の取り組みとして一体的に推進

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>27 魚梁瀬森林鉄道遺産を活用した交流人口の拡大</p> <p>《奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村》</p> <p>森林鉄道遺産（産業遺産、森の仕事、当時の生活文化等）を中芸地区の新しい地域資源（地域遺産）にとらえ、一般層の利用も視野に入れた活用に取り組み、地域連携を通して、交流人口の拡大や文化活動の促進を図る。</p> <p><事業主体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈半利町 ・田野町 ・安田町 ・北川村 ・馬路村 ・中芸観光協議会 ・中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会 	<p><遺産の活用と普及啓発活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・開通100周年事業の実施（H23～24） ・旅行会社等によるツアーの催行（H22～） ・中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会の自主多岐な活動の充実（H25） ・魚梁瀬森林鉄道開通100周年記念事業（H24） <p>総事業費1,803千円 高知県観光拠点等整備事業費補助金899千円</p> <p><遺産の保存管理・活用計画の策定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧魚梁瀬森林鉄道施設保存活用計画策定協議会の発足（H25）、同協議会運営会議開催を経て、同計画を策定し（H28.3月）、県文化財課を通じて文化庁に進達（H28.3.31） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ツアー等による林鉄ガイド実績 <p>H25：822人 H26：846人 H27：784人</p>
<p>28 体験型観光と地域の加工品づくりの推進～大野台地は、えいところ！～</p> <p>《田野町》</p> <p>交流事業の推進による交流人口の拡大と併せて新たな加工品開発に取り組み、農畜産物の消費拡大や所得の向上、雇用機会の創出を図る。</p> <p><事業主体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大野倶楽部 ・田野町 	<p><体験型観光の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流事業の受け入れ（H24～） ・体験交流事業を主催（H26） <p><加工品の開発・販売></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域イベント等への出店（H24～） 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流イベントへの参加者 <p>H24：3回 161人 H25：3回 32人 H26：4回 111人 <ul style="list-style-type: none"> ・地域イベント等への出店 <p>H24：7回 H25：8回 H26：5回 H27：9回</p> </p>
<p>29 世界に2つの「モネの庭」の誘客強化による交流人口の拡大</p> <p>《北川村》</p> <p>県外での広告宣伝や、それに連動した営業活動によって、来園への新たな動機付けにつながる施設整備やイベントの実施をPRして集客力を高める。</p> <p><事業主体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・北川村 ・(株)きたがわジャルダン 	<p><高知県内を中心に日帰り可能地域を対象とした広告宣伝と営業活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日帰り可能エリア<四国全域、岡山、神戸>への営業、団体<学校、グループ旅行>への営業（H25） <p><新商品の開発と販売促進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・カフェメニューの増加（H25） ・カフェの新メニュー・月替わりランチメニューの提供（H26） <p><経営改善に向けた取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・費用対効果を分析し、集客効果、収益性の高いイベントを実施（H25） ・販売部門<ギャラリーショップ、フラワーショップ、カフェ>の分析、強化（H25） ・接客マニュアル作成に向けた研修の実施（H26～）、接客マニュアル作成（H27） ・産業振興アドバイザーの招へい（H26） 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信及び営業活動とともに、イベントの強化やカフェにおける新メニューの提供、接客改善などの取り組みによりモネの庭の魅力が向上し、来園が促進された。 <p>⇒入園者数（決算期の毎年2月から翌年1月までの年間入園者数）</p> <p>H24.2月～H25.1月 55,288人 H25.2月～H26.1月 56,281人 H26.2月～H27.1月 54,115人 H27.2月～H28.1月 66,533人</p>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
ツアー客1,500人 (H22 : 1,171人)	(H27年度末実績) 784人	B	<p>魚梁瀬森林鉄道に係る様々なイベントや研究活動等がなされており、林鉄ガイドも中芸地域の体験型観光の一つとして定着している。</p> <p>また、中芸5町村の取り組みにより旧魚梁瀬森林鉄道施設保存活用計画がH28.3月に策定されたことから、H28以降は魚梁瀬森林鉄道を活用した更なる取り組みや保存・管理がなされることが期待される。</p> <p><課題> ・中芸5町村の連携による魚梁瀬森林鉄道遺産の活用と普及啓発活動</p>	<p>・H28.3月に策定された旧魚梁瀬森林鉄道施設保存活用計画に沿った中芸5町村の保存・管理・活用</p> <p>・日本遺産申請に向けた中芸5町村の連携体制の構築や各種団体との調整</p>
—	—	—	<p>ごめんなはり線ウォーキングイベントの受け入れは定着しており、毎年多くの参加者が地区を訪れている。</p> <p><課題> ・今まで事業の企画等を行ってきた町の地域おこし協力隊の退任に伴う事務局体制の確立</p>	<p>・田野駅屋を核とした田野町の地域振興策として、地域資源を活用した新商品の開発・販売の取り組みと町内の観光素材と連携した交流人口の拡大の取り組みを一体的に推進</p>
入園者数65,000人 (H22 : 53,369人)	(H27年度実績) 66,533人 (H27.2月~H28.1月)	A+	<p>県内外での営業活動などの様々な取り組みが行われてきたが、集客には結び付いていなかった。</p> <p>しかし、H27の東部地域博覧会で各種の媒体やテレビ番組でも紹介されたことにより、認知度は一定向上したと思われる。</p> <p><課題> ・個人客が増えたことにより、入園者は大幅増となったものの、前期より団体利用客が減少したことから誘客対策の強化が必要</p> <p>・営業・情報発信の不足</p>	<p>・H29から開催予定の志国高知幕末維新博においてサテライト会場となる中岡慎太郎館を中心に、北川村「モネの庭」マルモッタン及び北川村温泉の3施設による観光クラスター化を目指した取り組みの一体的な推進</p>

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>30 旧椎名小学校を活用した地域振興</p> <p>《室戸市》</p> <p>旧椎名小学校を海をテーマにした観光施設（深海生物、ウミガメ等を展示するミニ水族館、標本などの模型の展示、魚さばき体験スペースの設置等）に改修し、併せて集落活動センターを設置することにより、住民主体の活動を促進し、地域の課題解決や交流人口の拡大を図る。</p> <p>〈事業主体〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸市 ・NPO法人日本ウミガメ協議会 ・地域住民団体（椎名常会） ・椎名大敷組合 	<p>＜施設改修に向けた地域・関係機関との検討・協議＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・椎名常会との話し合い（H26～） ・NPOウミガメ協議会との面談（H27） ・旧椎名小学校利活用検討委員会の立ち上げ、開催（H27、4回）及び旧椎名小学校利活用計画案の地元説明会を開催（H27） 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧椎名小利活用検討委員会の立ち上げ、開催（H27）、地元説明会開催（H27）を経て、同委員会第4回において、利活用計画（平面図）の作成について市から報告。 ・市が改修工事の実施設計に着手（H27）
<p>31 集落活動センター「かまん東川」を拠点とした魅力ある地域づくり</p> <p>《安芸市》</p> <p>安芸市東川地区の資源を活用した新商品の開発や、農産物の販路の拡大を通じて所得の向上を図るとともに、交流人口の拡大や移住促進の取組を通じて、持続可能な集落づくりを目指す。</p> <p>〈事業主体〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東川地域おこし協議会 	<ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センター「かまん東川」の開設（H25.9月） <p>＜地域資源を活用した新商品の開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊による地域資源を活用した商品開発（紅茶やはちみつ等）や東京等での商品販売（H26） ・入河内大根を活用した商品の検討（H26～） ・地域おこし協力隊による地域特産品を販売するためのインターネットショップの開設 <p>＜農産物等の販路拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域外の方が産品を購入できるような場の開設について検討を開始。（H26～） <p>＜交流人口の拡大と移住促進への取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東川若いもんグループによるモニターツアー等イベントの企画、運営（H26～27） ・東川ふれあい市の開催（H26～） ・HPの立ち上げ（H26～）による集活センターの活動、地域の紹介 ・フェイスブック（H26～）によるイベント情報の発信 ・入河内集落内の空き家調査（H26）に基づく移住住宅の紹介 	<p>＜地域資源を活用した新商品の開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特産物を使った加工品開発 ・東京都内の自然食品店等でのテスト販売 ・安芸市本町商店街でのチャレンジショップを開店し、特産物の販売を開始した。 ・インターネット販売の開始 <p>＜交流人口の拡大と移住促進への取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント参加者 <ul style="list-style-type: none"> ・お茶摘み体験：56人 ・ゆずとり体験：37人 ・東川ふれあい市：約200人 ・東川健康ウォーク：60人 ・思い出フィルム上映会：80人 <p>⇒地域の知名度の向上と交流人口拡大につながった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任期満了後の地域おこし協力隊は地域で永住することとなった。

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
—	—	—	<p>H27から旧椎名小学校利活用検討委員会委員会が立ち上がり、地元説明会の開催を経て、室戸市において実施設計が進められている。H28年度第1四半期には完了する予定であるなど、具体的な動きがスタートした。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧椎名小学校の利活用及び運営体制の検討 ・NPO法人日本ウミガメ協議会や椎名大敷組合との連携 ・住民の組織づくり ・外部人材の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民による具体的な活動に向けた協議がスタートするなど、主体的な取り組みへの意識が醸成されつつあることから、県も引き続き先進地事例の紹介や事業計画案の策定支援などのサポート
—	—	—	<p>従来から複数の団体を組織して住民主体の活動を活発に行っていた地域が、集落活動センターの設置を契機に、集落の維持や活性化を目的として取り組み始め、また、個々の集落から旧東川村全体へと活動が広がり他の集落への関心を寄せる住民が増えるなど、住民の意識に変化がもたらされた。</p> <p>また、新たに地区の若手が「東川若いもんグループ」を立ち上げ、地域資源を活用した商品開発や新たなイベントを開催し、交流人口の拡大に向けて取り組みを行っている。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・紅茶やゆずジャムなどについてインターネット販売等の取り組みを始めたが、収入につなげる仕組みとなるまでには至っていないため、商品開発に向けた研究や工夫を行うとともに、販路の拡大に向けた取り組みが必要 ・また、集落活動センターの持続的な活動に向けたセンターの体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センターを中心とした商品開発、販売推進体制の構築 ・地域の物産品や体験イベント等により交流人口の増、移住定住の取り組みを強化 ・地域の高齢者の生活を支える取り組みとして、移動販売の実施

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>32 安田中山地区の活性化プロジェクト</p> <p>《安田町》</p> <p>地区住民が主体となり、安田ふるさと応援隊と協力して集落活動センターの運営を行い、地域資源である自然薯の生産拡大に取り組むとともに、地域の観光資源を活用して交流人口の拡大を図るなど、中山地区を元気にする取組を推進する。</p> <p><事業主体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安田町 ・中山を元気にする会 ・安田川漁協 ・自然薯生産組合 ・味工房じねん ・中山合同女性部 	<p>【施設改修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧中山小中学校（集落活動センター）の耐震診断（H25） ・旧中山小学校（集落活動センター）の改修工事（H26） <p>【運営主体の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山を元気にする会の月例化（H25～） ・集落活動センターなかやまの開設（H25.4月） ・なかやま山芋まつりの活性化（H27来場者約1,400人、前年比約1.2倍） ・地域づくり支援事業費補助金（小さなビジネス）による自然薯加工機器の導入（県費100千円）（H27） <p>【高知大学との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知大学・安田町連携事業協議会（H24） <p>【外部人材の導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安田町ふるさと応援隊の導入（H25～） ・H28.3月時点で4人が活動 ・集落調査2名の採用（H25） 	<p><高知大学との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・えんむすび隊による自然薯栽培支援（H26～） ・医学部看護学科実習の受け入れ（H27～） <p>⇒ 山芋栽培面積の拡大 H23：0畝 → H27：4畝</p> <p>⇒ 山芋まつり来場者数 H23：1,000人 → H27：1,400人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚梁瀬森林鉄道の暮らし・聞き取り調査7回（13名）実施（H27） ⇒高知人文社会科学会2015年公開シンポジウム及び関連企画（パネル展示、モニターツアー）実施 参加者：約140人 ・菓子製造業の食品営業許可取得（H28.1月） ⇒集落活動センターでの喫茶事業の拡充
<p>33 北川村温泉を核とした中山間振興</p> <p>《北川村》</p> <p>北川村温泉の建築に併せ、地域の集落活動の拠点を整備することにより、交流人口の拡大と地元農産物の直販などの集落活動を拡大することで中山間地域の振興を図る。</p> <p><事業主体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・北川村 ・北川村中部地区集落活動協議会 ・北川村観光協会 	<p><温泉施設の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・北川村温泉リニューアル基本計画策定（H25） 高知県観光拠点等整備事業費補助金1,155千円 ・基本設計及び実施設計（H26） <p><地域交流活動、集落活動の展開></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地場産物を販売する温泉直販市の設置（H25～） ・休耕田の整地と花畑作り、イベントの開催（H26～） ・温泉レストランでの地元産品の活用（H26～） 	<p><地域交流活動、集落活動の展開></p> <ul style="list-style-type: none"> ・菜の花開花によるイベント来訪者のべ約350人 ・モネの庭、地元建設会社、観光協会などを巻き込んだ協議会活動の広がり ⇒北川村中部地区集落活動協議会設立の目的である「地域の繋がり」が作られつつある ・地元産品の販売が地元住民にとって多少の収入源になっている。（温泉改修によりH27.8月末で直販所活動は一旦休止）
<p>34 馬路村魚梁瀬地区の活性化プロジェクト</p> <p>《馬路村》</p> <p>馬路村魚梁瀬地区の資源と人材を有機的に結合させ、交流人口の拡大と新ビジネスの創出を目標とした事業を展開する。</p> <p><事業主体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬路村 ・魚梁瀬地区住民団体（自治会） 	<p><外部人材の導入と住民組織づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚梁瀬ふるさと応援隊2名導入（H26.10月） ・魚梁瀬ふるさと応援隊による魚梁瀬の活性化に関する聞き取り調査実施（H27.11～12月） <p><ふるさと応援隊と協働した交流拠点の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚梁瀬パスポート、雛祭りなど交流人口拡大に向けた活動の開始 	<p><交流人口拡大に向けた取り組みの開始></p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚梁瀬パスポートの発行（絵ハガキの販売） ⇒販売実績 約360枚 取り組みが高知新聞等で取り上げられ、販売したハガキのうち数件ではあるが、実際に魚梁瀬地区に訪れパスポートとして利用され、地区の知名度の向上につながっている。

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評価	総括	
—	—	—	<p>集落活動センターが設置され、ふるさと応援隊員の活動や大学との連携を通して、地域住民の集落活性化への取り組みに対する参加意識が芽生えてきた。旧中山小中学校に地域の拠点が整備されたことにより住民の集う機会も増加し、近隣に映像制作企業のオフィスが設置されるなど、集落活動センターを中心にした新たな動きが生まれてきた。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 集落活動センターの円滑な運営の継続、経済的自立に向けた仕組みづくりのため、外部人材の有効活用（安田町ふるさと応援隊員による運営支援の継続） 旧中山小中学校を地域の拠点として活用していくために、集落活動センター以外の未改修部分に新たな機能を付加させていくよう、旧中山小中学校活用計画の検討・策定 	<ul style="list-style-type: none"> 中山小中学校活用検討委員会による施設活用の方向性の検討 関係機関（大学、東京映画社等）との連携強化 山芋の生産拡大、販路開拓等に向けた体制づくり、地域の収益活動として軌道に乗せていくため法人化も含めて検討
<p>来場者 (H24年比10%増) 宿泊：6,000人 (H24：5,463人)</p> <p>来場者 (H24年比10%増) 入浴：19,500人 (H24：17,731人)</p>	<p>(H27年度末実績) 宿泊：1,995人 (H27.4～8月) *施設改修のため、 H27.9月から休業</p> <p>(H27年度末実績) 入浴：7,170人 (H27.4～8月) *施設改修のため、 H27.9月から休業</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>交流人口の拡大や地域のつながりを目的とした住民組織が立ち上がり、集落の存続のための取り組みなどについて話し合う場ができて、休耕田の花畑づくりやイベントなど住民主体の活動が芽生えてきた。</p> <p>また、村により温泉施設のリニューアル計画も策定され、村内の重要な観光拠点として整備を進めていくこととなっている。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民の高齢化や人口減少による活動の負担を軽減するための外部人材の導入 集落活動への幅広い住民の参加 集落活動を広く知ってもらうための情報発信 現在閉館中の北川村温泉のリニューアル工事のH29年度末までの完成 	<ul style="list-style-type: none"> 観光施設としては、中岡慎太郎館を中心に、北川村「モネの庭」マルモットンと観光クラスター化を目指した取り組みを一体的に推進 地区内に設置予定の移住お試し住宅の管理運営を中部地区集落活動協議会で行い、交流人口の拡大、移住の促進を核に集落活動を展開
—	—	—	<p>地区に着任したふるさと応援隊がイベントや誘客の仕組みづくりを企画して、交流人口の拡大に向けた取り組みを行っている。これらイベント等に地域住民が参加し、地域ぐるみで来訪者をもてなすなど、交流人口拡大に向けた取り組みへの参加意識が醸成されつつある。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ふるさと応援隊の活動と地域住民主体の活性化策の融合による取り組みの具体化 新たな外部人材の導入による体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 交流人口拡大につながるビジネスの創出 応援隊1名退任に伴う追加導入を早期に行い、地域と支所、応援隊との連携を強化 魚梁瀬の50年記念行事開催に向けた住民主体による計画の立案、推進体制の仕組みづくり